

最高峰の棋士 羽生善治と 「竹風駒」

将棋界最高峰の棋士として名を馳せている羽生善治さん。大竹さんの竹風駒を20年以上前から愛用しており、3組を所有している。竹風駒でタイトル戦を指したこともあるという。また、最近では最年少プロ棋士として世間から脚光を浴びている藤井聡太四段も竹風駒を所有しているという。竹風駒は、一流のプロ棋士が惚れ込むほどの逸品だという。その魅力について羽生さんに話を聞いた。

盤上に 凜とたたずむ

将棋界の第一人者から高い評価を得ることは、それだけ指しやすい駒ということ。「癖がなくて見やすく、素直でバランスが良い。だから、とても対局しやすい」羽生さんは、インタビューの中でそんなことも語っている。大竹さんは「対戦する棋士は、勝負に集中しています。駒の書体は個性を出し過ぎず、盤上ではおとなしく静かな字となるように心掛けています」と語る大竹さん。

最高の材料からにじみ出るおしとやかな中にも凜としたたたずまい、そして木目に生える盛り上がった文字。この駒は、多くの将棋人の心をつかんでほさない。



Interview

私が日常で使っている駒は、大竹日出男さん（竹風）作、書体は菱湖書（巻菱湖が書いた）のものです。巻菱湖は、新潟生まれの江戸時代の書家です。見やすく線が通った字体の駒で、いつも愛用しています。

対局で新潟に行く時には、大竹さんとお話する機会がありますが、特に印象に残っているのは、駒の原材料を求めて御蔵島に行く時の話です。天候によっては、接岸も難しい島で、そ

こで育った黄楊がとても良い駒の木地になると聞いた時に、駒作りは、正に職人が木に息吹を吹き込む作業だと感じました。これも将棋文化の大切な大きな柱の一つだと思っています。今回、第30期竜王戦七番勝負では、挑戦者として三条市を訪れる機会を得たことに大竹さんの「縁」を感じます。竹風駒で対局できること、そして大竹さんとの再会を楽しみにしています。



日本将棋連盟所属 プロ棋士

羽生善治さん

昭和45年9月27日(47歳) 埼玉県所沢市出身
昭和60年12月18日、15歳でプロとなる。
平成8年2月14日、将棋界で初の7タイトル独占を達成。全7タイトルのうち竜王を除く6つの永世称号「永世六冠」永世名人、永世王位、名誉王座、永世棋王、永世棋聖、永世王将の資格を保持。さらに名誉NHK杯選手権者の称号を保持しており、7つの永世称号の保持は史上初。



竜王
渡辺 明 2冠

挑戦者
羽生 善治 棋聖

最強棋士を決する最高位の戦い 第30期竜王戦三条開催

越後長野温泉 嵐渓荘

関連イベント

前夜祭

11月22日(水)午後6時15分～

大盤解説

1日目：11月23日(祝・木)
午後1時～午後6時(封じ手)
2日目：11月24日(金)
午前9時～終局

交流イベント

11月25日(土)午前9時～午後2時

※関連イベントはいずれも、事前受付で定員に達しており、当日参加はできません。

大盤解説インターネット動画ライブ中継

中央公民館

とき 11月24日(金)
午後1時～午後9時30分
ところ 3階 講義室

※フリー将棋対局もできます。

いい湯らてい

とき 11月24日(金)
午後1時～午後9時30分
ところ 2階 大宴会場

※入館料が必要です。